

データサイエンス「魁」プログラム 2025年度自己点検・評価

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	本プログラムは2022年度秋学期から開始されている。本プログラムでは1年次に履修可能な専門科目「人工知能概論」「コンピュータ基礎」「データサイエンス演習I」および基盤教育科目「データサイエンス学」、さらに2年次に履修可能な専門科目「統計学基礎I」を必修科目として設置している。このうち、全専攻対象の基盤科目である「データサイエンス学」の履修者は、2023年度498人、2024年度489人、2025年度321人となっている。 本プログラム必修科目の2025年度のプログラム履修学生の成績は以下の通りである。 【データサイエンス学】2025年度の登録該当者なし 【統計学基礎I】5人中5人合格(合格率100%) 【人工知能概論】3人中3人合格(合格率100%) 【コンピュータ基礎】1人中1人合格(合格率100%) 【データサイエンス演習I】3人中3人合格(合格率100%) プログラム履修者数は少ないものの、今年度は全ての科目で合格率100%を達成している。
	学修成果	本プログラム履修学生の2025年度の各科目の平均GPAは次のとおりであった。 【データサイエンス学】2025年度の登録該当者なし 【統計学基礎I】2.6 【人工知能概論】3.7 【コンピュータ基礎】4.0 【データサイエンス演習I】3.7
	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 (アンケートはプログラム履修者を含む全履修学生が対象)	2025年度の学生からの授業改善アンケートからは、授業内容に対してわかりやすかったと回答している学生は専門科目の「コンピュータ基礎」では88%、「データサイエンス演習I」では100%、「人工知能概論」では69%、「統計学基礎I」では78%という結果だった。これらのアンケート結果等から、ばらつきはあるものの該当授業に対する参加意識、理解状況は概ね良好であったといえる。
	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度 (アンケートはプログラム履修者を含む全履修学生が対象)	授業アンケートの自由記述欄を見ると、「データサイエンスやデータ分析のメリット・デメリットは何かについて知ることができた」(データサイエンス学)、「専門的な内容であるが理解しやすいように説明してくれている」(統計学基礎I)、「AIの話が面白い」(人工知能概論)、「具体的に教えてくださるのが良い」(コンピュータ基礎)、「わからないところも丁寧に教えてくれるため、初心者でも安心して受けることができる」(データサイエンス演習I)など、授業内容についての高い満足度が伺える。後輩等他の学生への推奨度は高いものになっていると推察できる。
	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムの概要・魅力について、4月および9月にそれぞれ説明会を開催して履修推進を図っている。また、自学自修を行えるようUdemy Businessの活用も可能とし、その利用の仕方のレクチャーを不定期に開催している。
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	データサイエンス「魁」プログラムは、プログラム修了認定者が少なかったため、一般的な傾向をみることはできなかったが、今後の推移を見守りたい。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界から非常勤講師として、本学のデータサイエンス「魁」プログラムに携わっていただいている教員と授業方法・内容について意見を交わし、本学の学生のレディネスに合わせた実践的な学びの場を構築するよう努めてきている。産業界の視点や最新のトピックスを授業に取り入れることができる体制となっている。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		身の回りにある事物・事象を「データ」として取り扱うことで、それまで明らかではなかった事実を得たり、感覚的に認識していた事柄に対して根拠となる情報をまとめたりすることを体験し、知的好奇心を喚起させ、数理・データサイエンス・AIを学ぶ楽しさ、学ぶことの意義を実感できるように配慮を行なっている。 本プログラムを構成する各科目では具体的なテーマを題材に取り上げることで、理論や手法の理解にとどまらず、授業外で個々人が興味・関心を向けた対象に対して、データサイエンス的思考で向き合うことのできる人材を育成することをめざしている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		本学では各授業において半期で2回の授業アンケートを実施している。自由記述に書かれた授業改善の要望などについては、合理的要望である場合には取り入れるよう努めてきている。授業の十分な理解を促進するためのサポートも行なっている。たとえば「機械学習演習」では、授業内容をGitHubで公開しており、タイピングが苦手な学生でもプログラムを実行できたり、授業外でも自学自修できるようにしている。 また、多くの異なるレディネスを持った学生が授業を十分に理解できるための補助的環境として、e-Learningシステムの一つであるUdemy Businessを希望する学生に提供している。